

＼きて／ ＼こたえる／

こどもと進めるまちづくり ハンドブック

～豊田市こどもの意見反映ガイドライン～

令和8年3月第2版

こども・若者部 こども・若者政策課



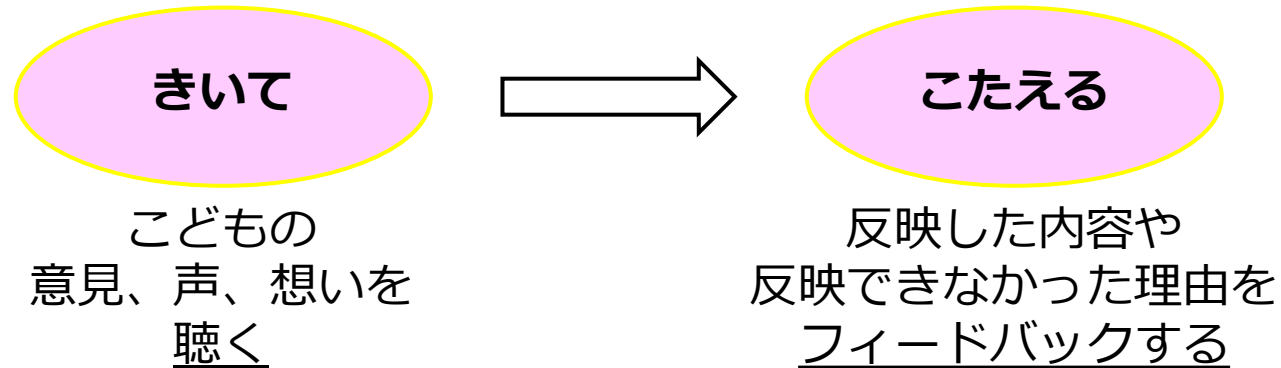
豊田市は、中部地方初の
「ユニセフ日本型CFCI実践自治体」として
こどもにやさしいまちづくりに取り組んでいます

はじめに

このハンドブックは、豊田市の施策に「こども視点」を取り入れるための手引です。

ハンドブックの中で「意見反映」という言葉を使用していますが、必ず反映しなくてはならない、ということではありません。

大切なのは、意見を通して、こどもと大人とがコミュニケーションを取り、お互いの考えを共有することです。



ハンドブックでは、さまざまな例を紹介しています。

実は既にやっていたことはないか、今の取組に少しプラスできることはないか、そのような視点でも考えていただけると嬉しいです。

「こどもにやさしいまちづくり」を進めることで、「みんなにやさしいまち」にしていきたいと思います。

目次

1 意見反映の背景と意義

…4ページ

- 1 こどもの意見反映に関する主なできごと
- 2 なぜ意見を聴き、反映することが大事なのか？

2 意見反映の進め方

…9ページ

- ステップ1 業務における「こども視点」を考えてみる
- ステップ2 目的・テーマを考える
- ステップ3 意見を聴く方法を考える
- ステップ4 意見を聴く
- ステップ5 意見を反映する
- ステップ6 結果をフィードバックする

「こども」表記について

- ・このハンドブックにおける「こども」は、若者も含みます。
- ・法令や固有名詞については、「子ども」の語を用いる場合があります。
(例：豊田市子ども条例)

別添資料 こどもの意見反映の取組事例集

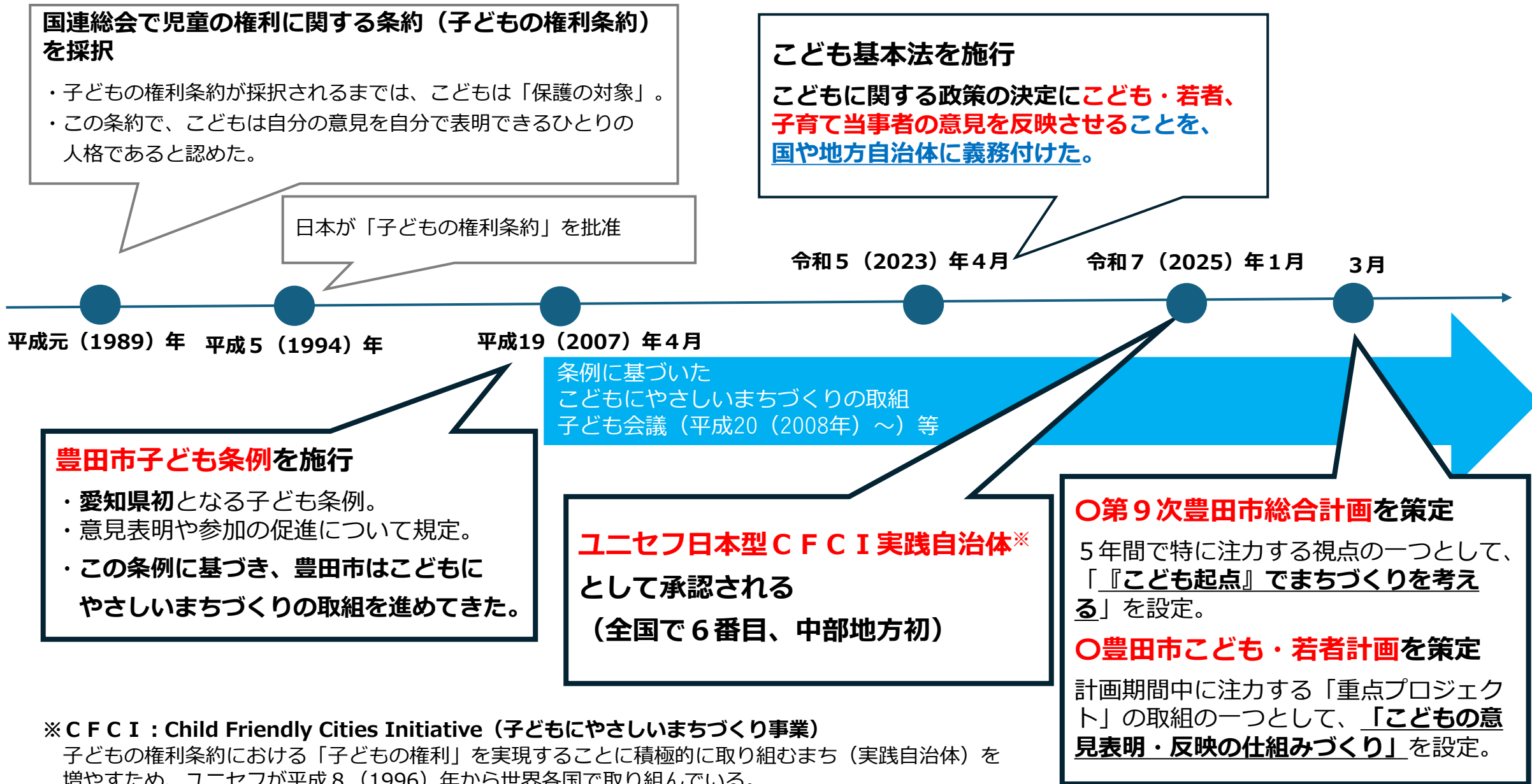
<FAQ> こんなときはどうする？

- ・どの年齢のこどもに意見を聴けばいいですか？ …13ページ
- ・意見を聴く中で不適切行為や権利侵害を発見した場合、相談を受けた場合はどうしたらいいですか？ …14ページ
- ・聴いた意見は全て反映しなければいけませんか？ …17ページ

1 意見反映の背景と意義 こどもの意見反映に関する主なできごと

世界・日本の動き

豊田市の動き



なぜ意見を聴き、反映することが大事なのか？

市

ニーズをよりの的確に把握することができ、
市の事業や取組がより実効性のあるものになる

子ども

「自らの意見が十分に聴かれた」という体験が、
社会の一員としての主体性、自己肯定感の向上につながる
⇒ **豊田市や地域への愛着を持ち、住み続けたいと思う
きっかけになる**

なぜ意見を聴き、反映することが大事なのか？

市

ニーズをよりの確に把握することができ、
市の事業や取組がより実効性のあるものになる



★ニーズを聴いたことで事業がより良くなった事例★

【青少年センターサロンの再整備】

青少年センターのターゲットである若者（大学生）にワークショップで意見を聴き、反映（交流ゾーンや活動展示ゾーンに分けて活用、コンセント付きテーブルの設置、カフェのような集いやすい照明の設置など）

⇒利用者増につながった！



なぜ意見を聴き、反映することが大事なのか？

こども

「自らの意見が十分に聴かれた」という体験が、
社会の一員としての主体性、自己肯定感の向上につながる

⇒ **豊田市や地域への愛着を持ち、住み続けたいと思うきっかけになる**

市⇄こども
みんながうれしい

×意見を聴いただけで終わらせる、形だけの意見聴取
⇒こどもの失望を招き、意見表明の意欲をそいでしまいます。



意見を言ったのに、
何も反応がない。
無駄だった…

○「意見がしっかり受け止められた」「自分の意見でより良い変化が生まれた」と感じられる体験
⇒こどもの自己肯定感や自己有用感がコミュニティでの体験を通して高まり、**豊田市に住み続けたい、帰ってきたいという思いにつながります。**

「きいて」「こたえる」ことは、とよたローカルゴールの実現にも関わっています。



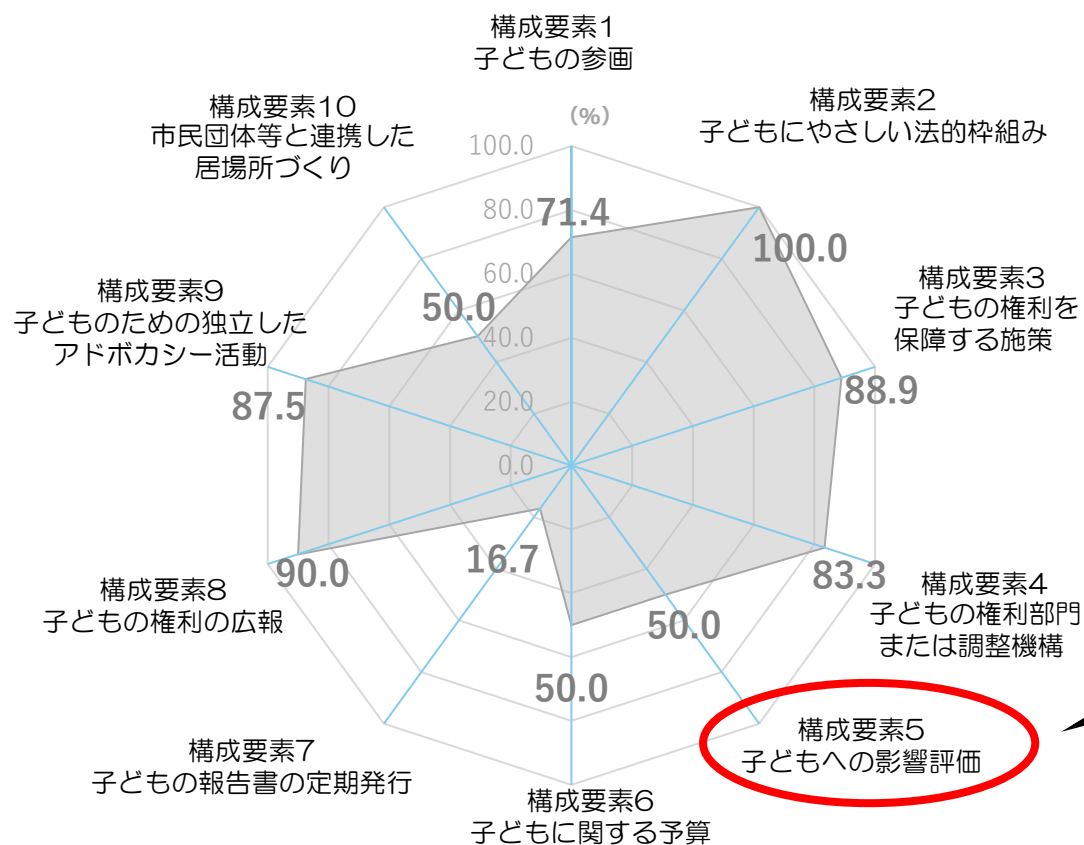
意見を言えたこと、聞いてもらえたことで自信がつき、自らのミライを切り開く力をはぐくんでいくことができる！



意見を言えたこと、聞いてもらえたことで、まちへの信頼が生まれ、豊田市や地域への愛着や誇りを感じられる！

参考：ユニセフ日本型CFCIチェックリストによる自己評価（令和6年8月末時点）

ユニセフ日本型CFCIチェックリストを活用して、豊田市の様々な分野で、どれくらい「こどもにやさしいまちづくり」が進んでいるかを確認しました。



「構成要素5 子どもへの影響評価」ができていない

⇒この項目を向上させるためには、

- 各施策が、こどもに対してどのような影響を与えているか評価する
- 新規の条例・規則・政策の立案や計画策定のプロセスに、こどもが参画する

等の取組を**全庁的に**進めていく必要があります。

※チェックリストと自己評価は、市ホームページにて公表しています。
https://www.city.toyota.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page/001/053/171/r0610/02.pdf

「きいて」「こたえる」ための6ステップ

01 業務における「こども視点」を考えてみる

02 目的・テーマを考える

03 意見を聴く方法を考える

04 意見を聴く

05 意見を反映する

06 結果をフィードバックする

意見をきくための準備について確認します。

意見をきく際に気を付けるべきポイントを確認します。

意見を聴いた後、こどもに「こたえる」ための手段を確認します。

このステップを踏まえて、豊田市で実際に行った取組を事例集（別添参照）にまとめています▶

01 業務における「こども視点」を考えてみる

以下の視点で、自分の業務について考えてみましょう

既に、こどもに意見を聴いている取組はないか？

例) 「〇〇アンケート調査では、小学生から大人までに聴いている」
「△△をつくるときに、地域のこどもにヒアリングした！」

⇒ぜひ継続をお願いします！

さらに、意見反映・フィードバックまでできているか確認しましょう。

今の取組において、こどもの意見を取り入れた方がよい部分はないか？

例) 道路や公園などのハード面の整備において、こどもが利用するときの視点が入っているか

⇒こどもにも関係するが、こどもの意見を聴けていない部分はないでしょうか？

これから取組を進めるに当たって、こどもが参画できる部分はないか？

例) ・計画策定の際、こどもの意見を聴いているか
・イベントでこどもの意見を取り入れる部分はないか

⇒こどもに参画してもらうことで、事業をより深められる可能性があります。

こどもに関係する計画や新しい施設等をつくる際は、こどもに意見を聴くようにしましょう。

大人（職員）の頭の中での「こどもにとってこれがよいと思う」という考えは、実際のこどもの声とは異なるかもしれません。こども自身にきいてみましょう◎



02 目的・テーマを考える

意見を聴く前に目的やテーマの設定をしっかりと行うことで、こちらの意図がこどもに伝わりやすく、また、こどもが意見を言いやすくなります。

- <目的の例>**
- ・現状の施策について、希望や課題、ニーズを聞きたい
 - ・どのように課題を解決するか、アイデアを募集したい
 - ・こどもに施策や事業を評価してほしい

<テーマ設定>

こどもにとって分かりやすく、意見を言いやすいテーマを設定します。

(参考)

全国の地方自治体が行っているテーマの例

出典：こども家庭庁「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」

テーマ		対象年代
総合計画、まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもにやさしいまち ・総合計画で策定するテーマ 	小学4年生～高校生 中学生
子ども・子育て支援事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活、放課後の過ごし方、悩みや相談 	中学生～高校生
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校則、行事運営（学校運営協議会の生徒委員） ・学校のコンセプト、名前、制服等 ・廃校・廃園の利活用 	小学4年生～中学生 小学4年生～29歳 中学生、19～29歳
児童館・中高生向け施設等の居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所の運営 ・児童館のルール、図書室の本の選定 	小学生～高校生 小学生
公園・遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ・公園に設置する遊具 ・ボール遊び禁止について 	乳幼児～小学生 小学4年生～中学生
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な道路の廃道 	小学生
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前エリアの活性化 	中学生
成人式・二十歳のつどい	<ul style="list-style-type: none"> ・記念行事の企画・運営 	高校生～22歳
選挙	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の投票率向上 	高校生～29歳
復興	<ul style="list-style-type: none"> ・被災後の学校再建（コンセプト、名前、校章、制服） 	小学生～29歳

03 意見を聴く方法を考える その1

ステップ02で設定した目的・テーマを踏まえ、どのような方法が適切か考えましょう。

<意見を聴く方法の例>

方法	メリット	注意すべき点
対面	<ul style="list-style-type: none">相手の表情や仕草、反応を見ながら話ができる。頷き・相づち等により意見を受け止められたと感じて意見を言いやすい雰囲気ができる。その場でこどもの疑問等に答えることで、こどもの理解を深め、意見を深掘りできる。	<ul style="list-style-type: none">こどもが参加しやすいように、時期や時間帯を工夫する必要がある一度に参加できる人数に限られる意見を強く言う人が同じ場にいると、圧倒されて意見を言いにくくなる場合がある
オンライン	<ul style="list-style-type: none">遠方に住んでいる、怪我・障がいがある等、移動が難しい人でも参加しやすい。カメラオフにすれば、顔を見せずに緊張感が少ない形で参加できる。	<ul style="list-style-type: none">接続端末やWi-Fi等の通信環境がないこどもが参加できない対面に比べて表情やリアクションが分かりづらく、人によっては不安になり、話しにくくなる場合がある
アンケート	<ul style="list-style-type: none">質問に答える形式のため意見を伝えやすい。匿名方式にもできるため、意見を言う心理的ハードルがより低くなる。	<ul style="list-style-type: none">意見の背景や理由等、言いたい事が十分に伝わらない場合がある質問数が多いと回答負荷がかかる意見の深掘りが比較的難しい

03 意見を聴く方法を考える その2

より具体的な手法の例を紹介します。

手法	実施例
アンケート	<ul style="list-style-type: none">● イベントの中で、こどもを対象にアンケート調査をする<ul style="list-style-type: none">・ その場で紙に書いてもらう・ インタビューしてみる・ シール投票（例：10ページ 高岡支所の取組事例）● 大人が対象のアンケート調査を、こども・若者にも実施してみる
ヒアリング (座談会)	<ul style="list-style-type: none">● 数名のこども・若者を対象に、対面またはオンラインで意見をきく
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">● 単発ワークショップで、こどもたちに意見交換しながら考えてもらう● じっくり、段階を踏んで考えてほしい！ → 複数開催、回を重ねるごとに深掘りできるようにテーマ設定する。

<FAQ>

Q どの年齢のこどもに意見を聴けばいいですか？

A 施策の対象年齢が決まっている場合は、その対象年齢のこども・若者が基本ですが、年齢による先入観は持たないように。

「意見を言えるのは中高生以上だろう」等、年齢による先入観は持たないようにしましょう。幅広い年代のこどもを対象に聴く時は、年齢及び発達の程度に応じたテーマ選びや質問の仕方を変えること、施策に反映するために出てきた意見を解釈し、本質的なニーズを汲み取ることが必要です。

04 意見を聴く その1

こどもが意見を言いやすいようにするため、大人が気を付けるべきポイントを確認しましょう。

<安全・安心を確保する>

- ・ **けがや事故防止等の安全管理**を徹底します。
- ・ 活動に参加したことによって、**こどもが権利の侵害を受けることがないように**します。

⚠ 次のような行為は絶対にしてはいけません。

- ・ 侮辱的、攻撃的、差別的な言葉を使う
- ・ 自尊心を傷つける、軽視する、見下す等、心理的に傷つける
- ・ 個人を特定できるような情報を許可なく掲載する（特定可能な意見をそのまま公表する、写真・名前・居住地が揃う等）
- ・ 個人の連絡先を交換したり、活動外で個人的に連絡をとろうとしたりする

<FAQ>

Q 意見を聴く中で不適切行為や権利侵害を発見したり、相談を受けたりした時はどうしますか？

A 一人で抱え込まず、関係課・関係機関と連携して対処しましょう

意見を聴く中で、その子に対する不適切行為や権利侵害について知ることがあります。一人で対処せず、関係課・関係機関と連携することが必要です（**虐待の通告は義務**です）。話をしてくれた本人の気持ちは大事にすべきであり、意見を聴いた担当者自身が支援を直接行うことは難しいという責任の範囲を明確にしつつ、解決のための選択肢を示し、関係課・関係機関につなぐようにしましょう。

04 意見を聴く その2

<伝え方（資料づくり・話し方）を工夫する>

- ・「なぜ」「何」を聴きたいのか、丁寧に説明します。
- ・年齢及び発達の程度に応じた言葉づかいや表現をします。

- 語彙 ・ 専門用語や難しい単語をわかりやすい言葉に置き換える
- 情報量 ・ 一度に新しい情報をたくさん伝えると、混乱してしまいます。
ポイントをしばって伝えましょう。
- デザイン ・ 文字を大きくする
・ イラストや写真を取り入れる
・ 色を取り入れる
- 表記 ・ 漢字に振りがなを振る、ひらがな表記にする

⦿注意する話し方⦿

- ・ 早口で話す
- ・ 安易に話を受け流す
- ・ 意見を評価する（「それは違うよ」と否定する等）
- ・ 求める意見へと誘導する
- ・ 考えをまとめることを待たずに、話を打ち切る

問いかけの例：まちのビジョンがテーマの場合

低年齢の子どもへの問いかけ

「じぶんのまちで、すきなところは？」

「AとB、どっちがすき？」

- ★自分を主語にして考えられる質問にする。
選択肢があると答えやすい！

高校生以上への問いかけ

「自分のまちは暮らしやすいか、その理由は」

「大人になっても住み続けるには何が必要か」

- ★より具体的な質問も検討する。

こどもがその大人を信頼できず、本音を聴くことが難しくなってしまいます。
大人が期待することを察知して、期待されることを言おうとしたり、黙ったりしてしまうこどももいることに注意しましょう。

04 意見を聴く その3

<雰囲気づくり> ※ワークショップ・ヒアリングの場合

- ・できるだけカジュアルな服装にする
かっちりスーツ姿だと、こどもが緊張してしまうかもしれません…。
- ・職員を含め、呼ばれたい名前、ニックネームで呼び合う
- ・アイスブレイクで緊張をほどく

<振り返りをする> ※ワークショップ・ヒアリングの場合

- ・意見を聴いた後、参加者にアンケート等で評価してもらいます。

質問の例

- ・今回、参加した理由は？
- ・参加しての満足度は？またその理由は？
- ・安心して意見を言える場であったか？

- ・場の終了後、その場に関わったメンバーで、良かった点や改善点について振り返り、フィードバックし合います。
次回の参考にできるように、振り返りの内容は記録しましょう。

アイスブレイクの例



「無人島に何を持っていく？」
自分のアイデアをグループで
シェアしてみよう！

第1回 豊田市子ども会議 (2024/6/23)
今日の感想 (口赤口緑) 名前 ()

今日思ったこと・感じたこと・困ったこと、次回やりたいこと、もっとこうしたらいい・・・
などなんでも書いてね♪

【例】子ども会議の感想用紙
今日思ったこと・感じたこと・困ったこと、
次回やりたいこと、もっとこうしたらいい
…などを記入してもらいます。

☺ ☹ ☺ ☹ ☺ ☹ ☺ ☹ ☺ ☹

2 意見反映の進め方

05 意見を反映する

こどもから聴いた意見を、どのように反映するか検討します。



← 子ども条例
マスコットキャラクター
「チルコ」

<意見反映の例>

- ・ 事業の改善に意見を反映する
- ・ 審議会や委員会等の会議資料とする
- ・ 指針・答申への反映
- ・ 広報物等の資料の改善

★子ども会議での意見を政策に反映した事例

- ・ 子ども条例普及を目指した子ども条例パンフレットの刷新と、マスコットキャラクターのデザイン及び名前の公募
平成21（2009）年度提案⇒翌年度実現！
- ・ 子どもの権利相談室の愛称の公募
令和元（2019）年度、選考に子ども委員が参加、「こことよ」に決定。
さらに、ロゴやコピー、動画をこどもたちと作成して啓発を行った。
- ・ コン서트ホール公演を、低価格かつJポップやアニメを中心とした身近な内容で実施する提案
令和4（2022）年度提案⇒令和6年度実現！



<FAQ>

Q 聴いた意見は全て反映しなければいけませんか？

A できるだけ反映するのが理想ですが、反映が難しい場合は、その理由を説明できるようにします

こどもに意見を聴くことは、こどもの言う通りにすることではありません。政策は様々な関係者を考慮する必要があり、予算や期間、体制等の制約もあります。政策の目的や内容、また意見を表明したこどもの年齢及び発達の程度に応じて、出された意見を正當に考慮することが大切です。こどもにとって一番良いことは何かを考え、結論に至る考え方を説明し、対話する過程をつくりましょう。

06 結果をフィードバックする

政策への反映の検討プロセスや反映結果を、適切なタイミング・方法で、こどもに分かりやすくフィードバックします。

<フィードバックする内容>

意見を取り入れるかどうかの考え方（判断基準）を示した上で、寄せられた主な意見、反映結果、反映されない場合の理由を整理し、意見を聴いたこどもに伝えます。

<フィードバックの方法の例>

- ・パブリックコメントのように検討結果をまとめてホームページや図書で公表し、その情報を伝える
- ・こどもに結果を報告する場を設ける

- ・意見を聴いた大人が何に気づいたり学んだりしたのか？
- ・こどもの意見によってどのような変化があったのか？

これらのプロセスを示すことができると、こどもは「意見がしっかり受け止められた」と感じ、次も意見を言ってくれるようになります。



【豊田市こども・若者計画の中間報告会の様子】

- 参考資料

- こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン（こども家庭庁ホームページ）

- <https://www.cfa.go.jp/policies/iken/ikenhanei-guideline>

- 関連リンク

- ・ 第9次豊田市総合計画

- <https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/1055819/index.html>

- ・ 豊田市こども・若者計画

- <https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/ikusei/1058950.html>

- ・ 豊田市子ども条例

- <https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/ikusei/1007534.html>

- ・ ユニセフCFCI実践自治体について

- <https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/jinken/1053171/index.html>